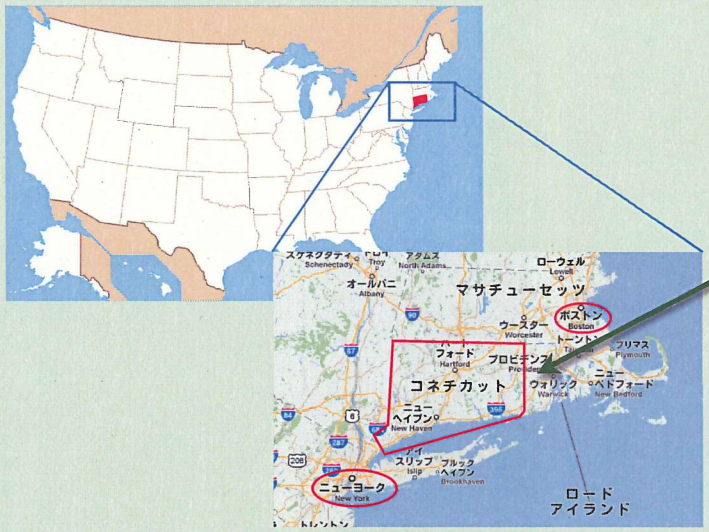
壁新聞

（タイトル：コネチカットの雪の上にて）

２月号は、アメリカ東海岸コネチカット州からお送りします。



コネチカットは、ニューヨークとボストンの間にある州です。

「コネチカット」は、この地に先住するモヘガン族インディアンの言葉で、「長い川が流れる土地（Quinnehtukqut）を意味します。

アジア人は人口の約2%です。

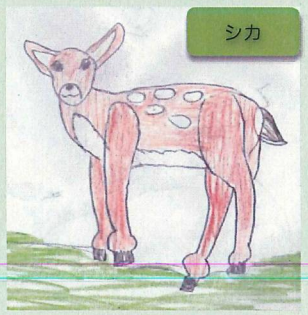
【みらいの画伯たちによる、コネチカットの野生動物】

コネチカットには沢山の野生動物が生息しています。そのなかでも庭にも遊びに来る可愛い仲間たちを紹介します。

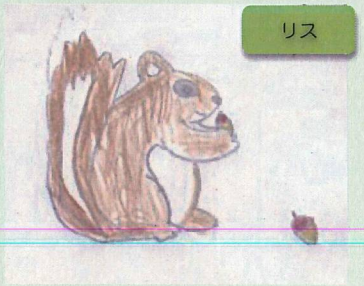
クマ

ウサギ

スカンク



シカ



リス

キツネ

（挿絵・町田 さわちゃん）

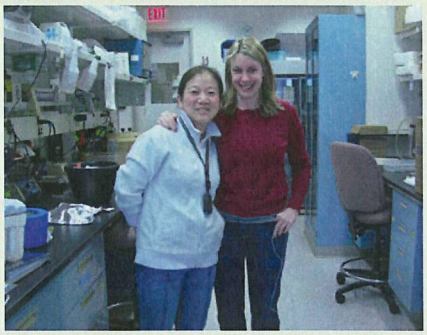
【みらいのための科学者＆教育者】

コネチカット大学で働いている日本人の先生方へのインタビューをさせていただきました

古性 美記（ふるしょう みき） 先生

1） どんな研究をされているのですか？

私の研究対象は脳、脊髄を構成する細胞の一つであるオリゴデンドロサイトです。オリゴデンドロサイトは神経細胞の軸索のまわりに髄鞘と呼ばれる層状の鞘を形成する細胞です。その鞘は神経細胞の電気信号を素早く伝える重要な役割を果たしています。しかし最近、それ以外の役割もあることが分かってきました。オリゴデンドロサイトがどのように髄鞘を形成し、また成体でどのような機能的役割を果たしているのかについて研究しています。



2）その研究は社会にどのように役立ちますか？

髄鞘は電線を包んでいるビニールのように絶縁体のような機能が知られていましたが、近年になりそれ以外にも学習との関連、多発性硬化症をはじめとした髄鞘の異常を伴う病気との関連が明らかになってきました。しかし、すべての機能が分かっている訳ではありません。今まで知られていない機能を知ることで多発性硬化症だけでなく、関連が知られていなかった病気の改善などにも役に立つと考えています。

3）研究をしていてしんどいなぁと思うことはどんなことですか？

研究した結果はどこよりも早く論文として公表しなければ、その成果はほとんど無意味なものになってしまいます。なので、類似した研究をしている研究室があった場合、そちらよりも先にしっかりとしたデータとともに論文を書き上げなければなりません。私の所属する研究室はあまり大きくないので、その場合は仕事量なども大変なことになります。その時はしんどいですが、終わったときの達成感の方が大きいです。

4）アメリカと日本で研究環境は違いますか？

日本は女性が研究を続けづらい環境であるように感じます。こちらでもやはり男性が優遇されているようですが、女性（特にお子さんをお持ちの女性）へのサポート体制などが日本より充実しているようです。

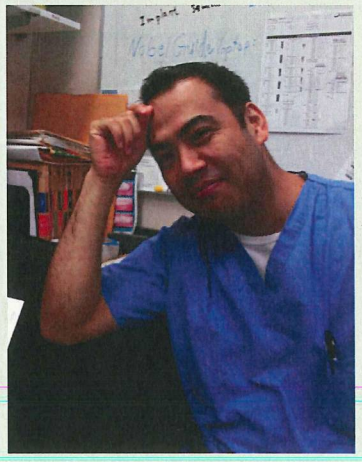
5）おすすめの大学の食堂のメニューは？

Pierogi（ポーランド料理の餃子のようなもの）です。

祖父江 尊範（そぶえ たかのり） 先生

1）アメリカの大学で何をしていますか？

コネチカット大学歯学部に在籍しています。私の専門が歯周病とインプラント治療ですので、歯周病の患者さんを治療したり歯学部の学生や研修医に治療法を教えたり、また研究も行なっています。 研究は歯周病と慢性腎疾患との関わりを解明する目的で行なっています。これまでの私たちの研究で、歯周病を患った患者さんは慢性腎疾患を有する割合が高いことが明らかになりました。



2）その研究でどんな病気が治るのですか？

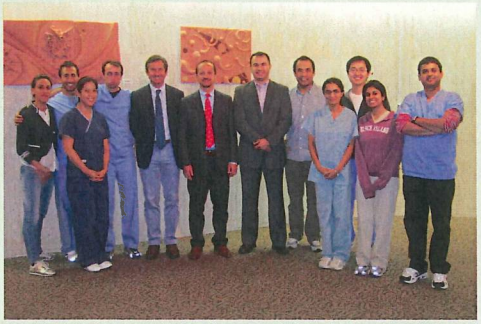
現在慢性腎疾患を患っていて人工透析を受けている患者さんを対象に歯周病治療を行なっています。歯周病治療によって歯周病だけでなく慢性腎疾患も良くなるかどうか研究しています。

3）研究をしていて,しんどいなとおもうことはどんなことですか？

クルマが故障して自分で修理するとしましょう。どこが問題なのかメカニズムを知らないと修理できません。また問題を探すのに 一ヶ所 一ヶ所調べて行かないと見つかることができません。病気の治療法を新しく発見したり開発するには車の修理と同じくひとつひとつ丁寧に調べて行かなければいけないのでなかなか前に進まない、時間がかかる。それがシンドいな、ストレスだなと感じることでしょうか？

4）アメリカの大学生と日本の大学生の違いは？

学生さんと触れ合うことが多いのですが日本の学生さんと比較するとアメリカの大学生の方が積極的だと思います。疑問があれば色々質問してきますし、会話を通してヤル気を感じます。



5）日本人の学生さんたちに一言。

大学を卒業した時に、まさか将来アメリカで生活するなんて考えませんでした。海外旅行も25歳になるまで行ったことがありませんでした。異なる土地、環境に暮らしてみると今まで普通に思っていたことがとても奇妙見えたり、逆にとても誇らしく思えたりします。自分の限界を無理矢理にでも押し広げて視野を広げてください。

丹原（にはら） 惇（じゅん） 先生

1）日本ではどんなことをされていたのですか？

日本では、歯医者さんをやっていました。でも、普通の歯医者ではなく、歯並びを直す「矯正歯科」が専門です。大学を卒業してから、1年間は研修医をして、その後は4年間、新潟大学で大学院生として、診療と研究をしていました。毎日、診療室で治療をしたり、夜は大学で次の診療の準備や患者さんのレントゲン写真を使った研究をしたりしていました。

2）アメリカではどんなことをするのですか？

日本にいる時は、主に臨床研究といって、患者さんのデータを解析するような研究をしてきました。しかし、研究にはもう一つの分野があって、それがこちらで行う予定の基礎研究という動物を使った研究です。人間ではどうしても治療後に、組織や細胞を顕微鏡で見たりする事ができないので、その場合は、動物に同じ事を行って、顕微鏡で観察したりします。むしろ、研究というとこちらをイメージする方が多いのではないでしょうか。私も研究者として生きて行く上で、この基礎研究という分野は非常に重要なので、アメリカに来て勉強しようと思いました。

3）アメリカの大学の第一印象は？

とりあえず、日本とはすべてが違って、第一印象がどうだったのか忘れちゃいました（笑）。未だに慣れない事ばかりです。ただ、周りのみんながとても優しく接してくれるので、何とかやっているって感じです。とりあえず、街やキャンパスが広大だってことが一番の印象ですかね。車がないと買い物一ついけないですし、コンビニなんかも全くないので、日本とは生活スタイルが全く違います。

4）お子さんの歯並びが気になる方へ一言。

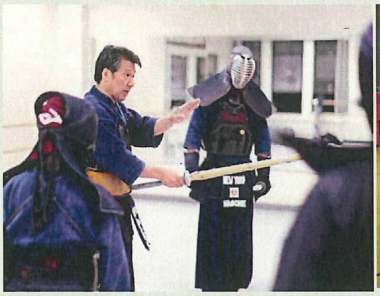
歯並びは子どものうちに直した方が良い場合と、大人になってから直した方が良い場合と２通りあります。歯並びと言ってもデコボコだけではなくて、上下の噛み合わせ方や口元のバランスなどに問題がある場合も少なくありません。もし歯並びが気になるのであれば、一度、矯正の専門医に相談に行くことをオススメします。治療をするかしないかは別にして、矯正専門医の話を聞くだけでも今の状態や歯並びの直し方についていろいろとアドバイスがもらえて、分からない事だらけの歯科矯正が身近に感じられると思いますよ。

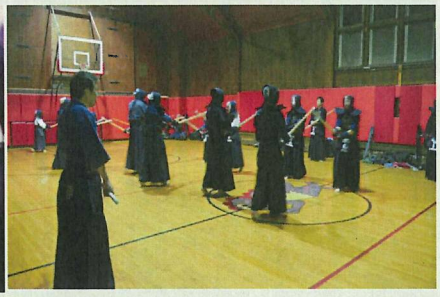
（インタビュアー・祖父江 有希子）

【みらいの剣士たち・志道学院】

志道学院は １９８３年にニューヨークで同士館として設立され、現在も剣道、居合道を教えるのみではなく日本文化を伝える場として広く活動を行っています。

＊師範の加藤彰三先生にインタビューさせていただきました。





Q1) 先生のプロフィールを教えて下さい。

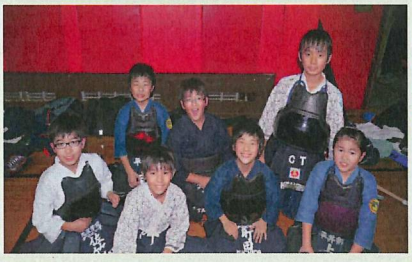
剣道、居合道歴４５年以上、剣道教士八段、居合道教士七段。近年では世界剣道選手権大会でのアメリカチームヘッドコーチや審判員をしています。
プロのフォトグラファーでもあり、現在もニューヨークを中心に写真家として活動しています。

Q2) 加藤先生が剣道の道場をはじめるきっかけはなんですか？

あるアーティストの集まりでYale大学のフェンシング部のコーチから試合を挑まれ、その場にあったモップの柄で打ち負かしたことが道場設立のきっかけとなりました。その集まりで見せた居合いの迫力と形の美しさに感銘をうけた数名から指導を頼まれ、自分の写真スタジオで定期的に集まるようになり、その後それが剣道の道場（同士館）へと変わっていったのです。

Q3) 道場をはじめて、加藤先生が困ったことはなんですか？

皆が仕事を終えた夜遅くから近所のダンススタジオの２階に集まり稽古していると、その甲高い気合いを悲鳴と聞き間違えた近所の住人から通報され、警察が出動してくる騒ぎになったこともありました。又、剣道の激しい踏み込みで床が悪くなるからとスタジオを貸すのに難色を示す所も多く、仕方なく道場を移転したこともあったんですよ。



Q4)日本のみなさんへ、一言お願いします。

アメリカから日本を見て、日本の素晴らしさを改めて感じています。海外にいるからこそ、日本文化の奥の深さをより強く感じます。今は日本も国際化してきていますが、日本古来の文化や精神を大事にし、誇りにして欲しいと思います。私達も海外から、日本の文化、武士道の精神を伝え守っていきます。

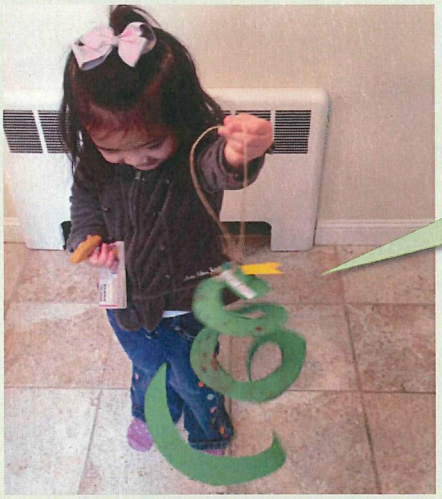
（インタビュアー・町田 美和）

【みらいを担う子どもたち・アメリカの幼稚園】

コネチカット州では、日本の年長さんにあたる年から義務教育になります。それ以前は親御さんや本人の意志で幼稚園に通うことになります。

我が家の３歳の長女の通っている学校は、１クラス生徒16人に先生が２人おられ、毎日楽しく学んでいます。アメリカでは干支を知らない人が多いので今年の干支にちなんで、ヘビの工作を教えに行って来ました。

緑色の紙に指でヘビの模様をつけます。



工作のあとは、みんなヘビになりきってしまいました！

ヘビになったあと、先生がヘビの絵本を読んでくれました。

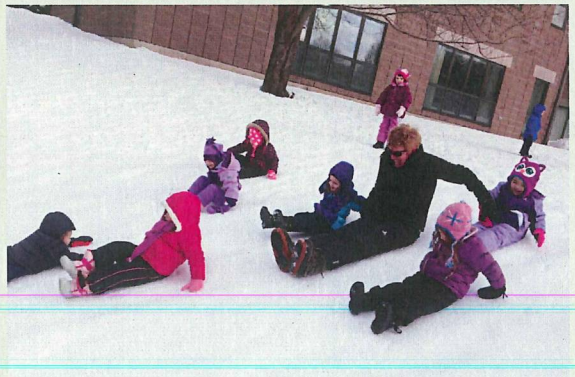
工作と本のあとは、楽しみにしていたオヤツの時間です。
みんな一列に並んで、手を洗います。

これが、今日のオヤツです。オヤツは、親御さんたちが毎日当番制になっているのですよ。今日は、アップルソース（右）と、ライスケーキ（左）です。アップルソースはすりおろしりんごです。人気のオヤツはチーズやチーズ味のクラッカーです。チョコレートやキャンディーなどの甘いオヤツは持ってきてはいけないことになっていますが、お誕生日の子供の親は全員の生徒分のカップケーキを持ってきて全員でお祝いすることになっています。

ライスケーキは日本のポン菓子のあまり甘くないようなものです。ちなみに、これはリンゴとシナモンの味です。

オヤツは、自分が食べられるだけ、先生に申告して、紙ナプキンの上に置いてもらいます。おかわりのときは、絶対に、丁寧に“Please (お願いします)”と言わないといけません。

暖かい日は、おやつのあとに雪遊びをします。



学校が小高い丘の上にあるので、天然の滑り台になるんですよ。

【みらいへの私たちの課題、おわりに】

昨年の12月14日、コネチカット州ニュータウンの小学校で銃乱射事件があり、20人の子供と犯人を含め計27人が死亡しました。この事件により、今年の私達のクリスマスの楽しい雰囲気は全くなくなってしまいました。

あの日は、昼からどのテレビ番組もこの事件を一日中報道していました。あまりにも、恐ろしく、想像を絶する事件だったのですが、私の長年の友人の母校であり、夫の元上司の住んでいる町と聞いて、二人の娘を持つ親として、本当に他人事ではないと思いました。

翌日からは、亡くなった子どもたちの写真やどんな子供だったのかという説明などがテレビで放送されており、あまりにも見るのが辛いので、そういう報道になると、チャンネルを変えてしまうほどでした。

２０人もの小さな子供が至近距離から何発も銃で打たれ、亡くなった姿を想像するだけで今でも涙が出ます。　親御さんたちには、あまりにも酷い光景なので最初は写真で身元確認を促したと聞きました。

生き残った子供が、”ぼくは、ただクリスマス、クリスマスだけは過ごしたいんだ！”と隠れているロッカーの中でささやいたというのを聞くと、全ての子供がきっとそうだったんだろうと思います。

親御さん達が既に用意した沢山のクリスマスプレゼントを開けることがなしに天国へ行ってしまった子どもたちに、どうすれば、納得してサヨウナラと言えるのでしょうか？

今回ばかりは、アメリカ人は銃の規制を強化すべく本気で立ち上がるべきだと思いました。

皆が武装すれば、世の中が平和になるわけではないのですから。

危ないものを持っていたら、必ず使ってみたくなるものです。銃の使い方を息子に教えたお母さんは、その銃で息子に顔を打たれ殺されたのですから。

娘の学校の教会も近所の教会も祈りを捧げに来る人達でいっぱいです。祈ること、心に停めることの大切さ、痛感しています。

壁新聞「みらい」２月号 編集部
２０１３年２月１０日　発行
編集　祖父江 有希子
構成　丹原 惇